

## 東部地区支部

足立区 荒川区 江戸川区 葛飾区 江東区 墨田区



質向上を目的とした4回の研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、すべて中止とした。会員相互の交流はメールやオンライン会議を併用し、各活動の今後の進め方について検討した。組織強化については、地区支部の活動報告として地区支部ニュースを計画通り年3回発行した。

しかし、地区支部としての活動がなかったことで、会員増加や組織強化につながる取り組みを行えなかった。

「まちの保健室」は7月、11月に開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、すべて中止とした。

### 次年度

引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、施設外での活動や研修参加の自粛など事業を進めにくい状況が想定される。これまでの活動方法を見直し、新たな生活様式の中で、どのように会員及び地域住民に同じ価値を提供できるかを考え、取り組んでいく。また、今回の感染拡大は地域における医療機関・施設・行政との連携が重要視された。各区内での関係もさることながら、地区としても各機関との連携にこれまで以上に力を注いでいく。

## 西部地区支部

板橋区 北区 新宿区 杉並区 豊島区 中野区 練馬区



地区支部研修については4回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、2回の開催となった。アンケートの結果では満足度が高く、次年度も開催を望む声が多かった。

他の地区支部・医療圏との連携については、地区理事との情報共有のみとなってしまう全体的な会員への情報伝達には至らなかった。

「まちの保健室」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、緊急事態宣言等により状況の改善が見込めず、中止とした。

地域における看護職の組織事業の推進については、東京都地域医療構想調整会議や在宅ワーキング等に参加し、看護協会の活動等を情報提供した。看護職の組織事業を推進するためには行政等との連携も必要であると考えているが、具体的な行動にまでは至らなかった。

### 次年度

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を常に考えながら役員会、研修、「まちの保健室」等、内容及び方法等を検討し実施する。また、会員拡大については、地区支部研修の開催は非常に有効な機会であり、そこで看護協会の活動や看護職への支援などの情報提供をしながら、身近な存在であることをアピールしていきたい。

## 南部地区支部

大田区 品川区 渋谷区 世田谷区 目黒区



看護実践能力向上の支援については、研修会を4回開催した。

情報発信については、地区支部だよりを3回発行し、「看護とうきょう」へ原稿を寄稿した。

「まちの保健室」については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止とした。

地域包括ケアシステム構築のために看護職の連携、多職種連携推進については、地区支部だよりで看護連携に関する記事を掲載し、診療所での看護活動、地域包括ケア委員会の取り組みを紹介した。

入会促進活動は、地区支部定例会で南部地区の入会状況を報告し、地区支部研修会で入会促進活動を行った。

### 次年度

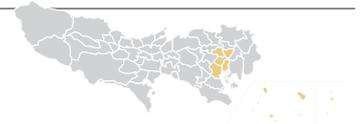
コロナ禍もあり、ウェブ等を利用して新しい活動形態を模索しながら進める。支部だよりではウェブサイトを活用して地区支部活動についての情報発信を行い、会員施設の看護活動の紹介を行いながら看護連携を図っていく。

研修会は会員の要望を取り入れながら企画運営し、支部だよりや研修会を通して会員拡大を行っていききたい。

地域包括ケアシステムを推進するために、地域包括ケア委員会と連携しながら地域住民の状況を把握し、地域住民への健康維持、疾病予防の啓発を行っていききたい。

## 中部地区支部

台東区 千代田区 中央区 文京区 港区 大島町 利島村 新島村 神津島村  
三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村



予定していた研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、緊急事態宣言が解除されてからは、募集人員を制限しながら、感染防止対策を徹底し3コースを実施することができた。

広報活動は、「中部地区だより」を2回、「中部地区だより 臨時号」を発行した。

「まちの保健室」「老人月間事業」については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止とした。

会員拡大については、各施設、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、役員同士協力しながら、地区支部活動を実施した。

### 次年度

コロナ禍における、地区住民活動として「まちの保健室」や「老人月間事業」を、安全に運営するための開催方法などを継続して検討する必要がある。

地区支部研修は会員の要望も多く、看護の質の向上に寄与し、会員獲得の機会にもなる。協会との連携を密にし、感染防止対策を徹底して行い、全コースの開催を目指していく。

情報発信については、地区支部における医療・看護・介護の活動や取り組みに関する情報を、会報やWebページを活用して共有できるよう、協会と連携していく。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、施設により参加制限等がある中で、地区支部活動を円滑に遂行できるよう、定例会の方法を含めて検討する。

## 多摩北地区支部

昭島市 あきる野市 青梅市 清瀬市 国立市 国分寺市 小平市 立川市 西東京市 羽村市  
東久留米市 東村山市 東大和市 福生市 武蔵村山市 奥多摩町 日の出町 瑞穂町 檜原村



地区支部研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため募集人員を半数にして2講座開催した。多摩北地区支部は都下という状況で、毎年、他の地区支部より開催回数を多く企画しているが、新型コロナウイルス感染症により中止せざるを得なかった。

広報活動は、「多摩北ニュース」を2回発行し、「看護とうきょう」へ原稿を寄稿した。

「まちの保健室」はすべて中止とした。

### 次年度

引き続き、看護職の資質の向上のため、「人材育成」「感染対策」「認知症看護」を企画していく。講師は地区支部で活躍している認定看護師などへ依頼し、認定看護師の活動への支援も行う。また、医療施設以外で働く看護職へも参加できるように働きかけ、オンラインを活用した参加を検討していく。

地域活動はコロナ禍のもと、感染対策をしっかり行い、少人数制で時間を区切り活動が可能か検討しながら開催を考える。

## 多摩南地区支部

稲城市 小金井市 狛江市 多摩市 調布市 八王子市 日野市 府中市 町田市 三鷹市 武蔵野市



実務実践能力の向上を支援する研修は、一部オンラインにて開催し好評だったが、他の研修は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、中止とした。

広報活動としては、「多摩南ニュース」を8月に発行した。

「まちの保健室」活動は、例年、調布市老人保健月間にあわせて実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。

地区活動の活性化については、東京都地域医療調整会議（オンライン）に出席し、地区活動の活性化を図った。事前に役員間にて、メール会議を実施し、本会議への事例検討及びアンケートへ回答した。

会員拡大については、地区支部役員会を4回実施し（すべてオンライン）、役員を通して、会員拡大を図った。会員数は7,817名（入会率34.3%）であった。

### 次年度

感染予防対策に努めながら、研修会ならびに「まちの保健室」活動などの地区活動への参加を促進し、多摩南地区における看護を活性化させたい。新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン開催も検討したい。

スローガンは、令和2年度に引き続き、「チームワーク・つなぐ・多摩」トリプルTで進む～地域ネットワークの構築へ、看護職の持てるチーム力を集結しよう!!～看護力と連携力とし、活動する。